

中国大陸や台湾の庶民が、生活のなかで使用・消費していた印刷物を総称して「中国民間版画」といいます。当館には数百点の民間版画が収蔵されており、10月5日から始まる第64回企画展ではその一部を展示いたします。大きなものはタタミ一枚ほどもあり、小さなものは郵便切手ほどです。

民間版画の種類は幅広く、礼拝の対象である神像図から室内装飾の吉祥画、願いを込めて焼く「紙馬」、他に包み紙や遊具（凧絵、双六、紙牌など）、壁紙や刺繍の型紙までも含みます。

民間版画が大量に消費される時期は、年末から正月にかけてです。年末に売り出される民間版画の代表的なものが、「年画」（部屋を装飾する。吉祥図や物語の図）や「門画」（門扉に貼る。家を守る「門神」や吉祥をもたらす天官・仙女・童子の図）、「神像図」（天地三界の神、財神、竈神など）です。

願いを込めて焼く「紙馬」や「紙銭」は、現在でも日常的に消費されています。また以前は、祭事や葬儀に使う紙の作り物（「紮糊」といいます）にも民間版画が多数使用されていましたが、現在これらは木版印刷からオフセット印刷に替わっています。本展では、特に民間版画の「用途」に焦点をあてて分類し、各分類ごとに詳しい解説を付けました。そして数ある資料の中から

門神、紮糊、神像図、紙馬、年画類を中心に展示します。また、民間版画の「天公燈座」や「七娘媽亭」の使われ方を理解していただくために、珍しい資料としてこれら実物の民間版画とその祈り”が込められ

門神、紮糊、神像図、紙馬、年画類を中心の使われ方を理解していただくために、を新しく制作していただきました。も展示します。の使用例から、民衆の“招福た数々をご覧ください。

第64回 企画展 中華世界の民間版画 —招福の祈り—

会期：10月5日(水)～12月5日(月)

会場：3階企画展示室



「五鬼」20世紀中頃 台湾



「獅頭啣劍」20世紀中頃 台南米街

トーク・サンコーカン

「天理参考館の中国民間版画
—所蔵資料の紹介とギャラリートーク—
日時：11月26日(土)午後1時30分～
講師：中尾 徳仁 学芸員 会場：研修室

列品解説

10月26日(水)午後1時30分～
会場：3階企画展示室



「天公燈座」2011年 台南米街

講演会

- ①「中国民間版画入門」
講師：三山 陵氏 (大東文化大学大学院非常勤講師)
- ②「台湾伝統版画の研究—その歴史と現状—」
講師：楊 永智氏 (台湾・東海大学兼任講師)
※日本語通訳あり
日時：10月15日(土)午後1時30分～
会場：研修室

会期：2012年1月5日（木）～3月5日（月）

今日、私たちの身のまわりはたくさんのガラス製品であふれています。容器や窓ガラスはもちろんのこと、照明具、レンズ、テレビなどの液晶ディスプレイ、光ファイバーなどなど、今や日常生活の中で欠かせない人工の素材です。様々な色と形に加工できるガラスは、人類の歩みとともに発展してきました。

その歴史は古く、約6000年前のメソポタミアにまでさかのぼります。はじめは石の表面にガラス質の膜を薄くかぶせた釉うわぐすりとして知られていました。そのうちガラスは単体で用いられるようになり、ビーズなどの装飾品や容器などが作り出されました。そして約2000年前にローマ帝国内で吹きガラス製法が開発されると、大量生産が可能になり、飛躍的に普及します。写真1や2のような西方のガラスはシルクロードを渡り、

やがて中国、朝鮮半島、日本にまでもたらされました。それまで日本人が目にしたことのある器といえば、陶器や金属器です。宝石のように美しく、光を通す透明なガラス器は、当時の人々にとって神秘的で魅惑的に映ったことでしょう。これらが正倉院宝物として大切に受け継がれてきたことは、異国からもたらされた美しい器への憧れを物語っています。

本展では、当館の所蔵するエジプト、ローマ、ペルシア、中国のガラスを中心に約80点を出品する予定です。各時代・地域の特徴を解説しながら、古代の東西交流の一端を垣間見たいと思います。また、本展に向けて行ってきた所蔵品の蛍光X線による成分分析の調査結果を公表する予定です。その科学的データが明らかにする事実は・・・？最新の研究成果もあわせてご覧頂きたいと思います。（飯降）



写真1 円形切子碗
6世紀 イラン 高さ7.6cm



写真2 玻璃十耳壺
唐（伝河南省洛陽唐墓出土）
7～8世紀 高さ13.6cm

イスラエルにおける発掘調査（八）

〔エン・ゲヴ遺跡①〕

これまで6回にわたり、テル・レヘシュ遺跡の様子をお知らせしましたが、今年（2011年）は発掘調査を行いませんでした。それは時々調査を休み、それまでの成果を調査報告書として出版しないといけなからです。今年はその原稿執筆の年でした。

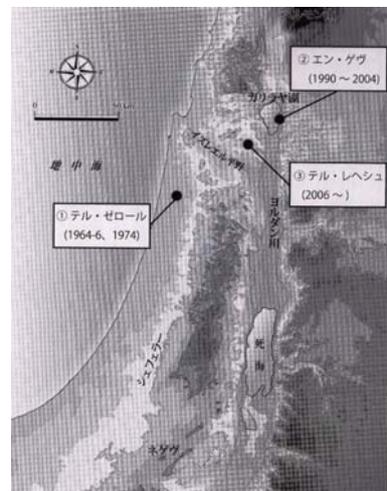
そこで、今回はテル・レヘシュ遺跡より以前に日本隊で調査を行っていたエン・ゲヴ遺跡について紹介しましょう。

エン・ゲヴ遺跡はテル・レヘシュ遺跡より北東約25kmにあり、イスラエル国内でも北東の端になります。東にはシリアと接するゴラン高原があり、高原の下にはイスラエルの水饗である淡水のガリラヤ湖があります。遺跡は湖と高原に挟まれた湖岸に営まれました。湖の標高はマイナス約200mで湖から流れ出る川はヨルダン川、その下流に死海があります。

このあたりは現在でもシリア国境に近いのですが、鉄器時代（B.C.11～8世紀）でも北東のアラム王国とイスラエル王国の国境に近く、両者の支配が交互に替わるような紛争地域でした。

遺跡のあるガリラヤ湖東岸は当時、ゲシュールと呼ばれていました。また、この付近には鉄器時代の遺跡は非常に少なく、大きな都市遺跡はあまりありません。アラムとイスラエルの戦争は『旧約聖書』の列王記に「アフィク」という町でもおこなわれたことが書かれています。このアフィクが現在のエン・ゲヴ遺跡である可能性があるのです。また、遺跡の近くに現代のアラブの村である「フィク」という寒村もあったのです。そうしたことから発掘調査はとても興味深いものとなりました。

調査は1990年に天理大学名誉教授の金関 恕氏を団長として第1次調査が行われ、以降2004年まで断続的に8次にわたり実施されました。その結果は次回に紹介します。（山内）



NEW!

松田顧問の考古余話 ① 翡翠の魅力

今年の春先、御所市秋津遺跡から縄文時代の翡翠製管玉が発見され話題になりました。翡翠独特の半透明な白色と深い緑色からなる色合いがなんと神秘的な代物です。

かつて我が国の翡翠は遙かミャンマーからもたらされたと考えられていましたが、大戦前に新潟県姫川流域で産地が確認され、科学的分析によって今では先史・古代に使われた翡翠はすべて姫川産であることが明らかになっています。当館の北側に広がる布留遺跡からも、大珠と呼ばれる縄文時代中頃の長さ5cm程の見事な翡翠製ペンダントが出土しています(写真)。現代女性の頸や胸元を飾っても、お洒落でかつ存在感もあり、人の目を惹きつけそうです。大珠は近畿では僅か数例しかなく、特別な人物しか手にすることのできない希少品だったのです。

縄文人が翡翠の大珠を珍重した理由は何処にあるのでしょうか？翡翠は宝石の中でも硬度は高くありませんが、繊維状の特殊な結晶からなり、割れにくく加工には高い技術が必要です。カワセミに由来する翡翠の美しさもさることながら、大珠には縄文人がそれまで克服できなかった高度な攻玉技術開発の象徴としての価値があったのです。



布留遺跡から出土した大珠

資料紹介

朝顔形埴輪

朝顔形埴輪は儀式に用いられる壺とその台を一体にして作ったものです。この埴輪が出土した布留遺跡布留(アラケ)地区は古墳ではありません。一緒に出土した土器や玉類などから祭場と考えられています。埴輪は27個体出土しており、朝顔形以外に円筒形のものがあります。埴輪が出土した場所は石敷きがなされ、埴輪は洪水によって倒れていましたが、列を成しており、方形の区画があったとみられます。

埴輪は3段に突帯が巡り三角の透かし紋様があり、一緒に出土した他の埴輪には方形や半円形、勾玉形などがあります。また、よく見ないとわかりませんが、突帯で区切られた段毎に赤と白で塗り分けられていたことがわかっています。こうした点は一般の古墳に置かれた埴輪と少し様相が異なります。

こうした埴輪で区画した場所は祭場であり、埴輪は区画を明示するための用具でありました。この内側で農耕儀礼が行われたとみられます。その祭りは赤・白の埴輪で囲まれ、鮮やかな色合いであったことでしょう。後に方形の祭場は神社の玉垣となり、恒久的なものへ変わっていきます。(山内)



天理市布留町
5世紀 高さ88.2cm

資料紹介

インドの衣装収納容器

この衣装収納容器は、インド西部の砂漠地帯で20世紀前半の頃、嫁入り道具として用いられていた晴れ着や貴重品を入れる収納具でした。三本の足がついた甕形の容器で、側面には蝶番と鍵が設けられています。あたかも炊飯ジャーのように蓋を開けて、中のものを出し入れできるようになっています。

この容器は今でこそ錆びて黒ずんでいますが、真鍮を加工して作られており、もともとは黄金色に輝いていました。童謡「月の砂漠」二番の歌詞に「金の鞍には 銀の甕、銀の鞍には 金の甕・・・」とありますが、この収納容器はまさに金の甕であり、ラクダに婚礼の荷を載せて嫁ぐお姫様の姿を思い浮かべることができます。かつてのインドの一部では家財を傾けるほどの贅を尽くした婚礼の風習があったと伝えられています。縁談をまとめるにも、制約が多く、自由な恋愛などはおよびもつきませんでした。そうした中、ようやく良縁に巡り会えた愛娘に、より豪華な嫁入り道具を持たせてやりたい。"幸多かれ"と祈る親の思いが、この器に込められています。(吉田)



インドの衣装収納容器
グジャラート州 高さ90cm

周辺の見所

厳島神社



厳島神社 天理市布留町

かつて石上神宮の北側に石上寺とも呼ばれた良因寺がありました。寺領4000坪を誇る大寺であったといわれます。現在はその跡地の一部と考えられる場所に、良因寺の分霊を祭る鎮守社として厳島神社が建っています。ここでは明治時代に再建された薬師堂を見る以外は、記録もなく、その大寺の全容を窺い知ることはできません。ところが、その存在すら分からない良因寺で小野小町と僧・遍昭の恋愛歌のやりとりがあったことはあまりにも有名で、その話は後世にまで語り継がれています。

小野小町は淳和、仁明天皇に仕えた絶世の美女で、六歌仙の中の歌人であり、また遍昭は桓武天皇の孫で宗貞といい、時の帝に仕えた後、出家して遍昭と名乗り良因寺の僧となりました。このときに二人は出逢い、恋に落ちていくという情熱的な恋の行方を、厳島神社の境内地に建てられた歌碑で知ることができます。

恋しい季節、人の恋路を見るのも一興、価値ありかな。行ってみたいいかがですか。(太田)

公開講演会トーク・サンコーカン

◇いずれも午後1時30分開講(申込不要)

◇受講料:無料(ただし入館料が必要)

第210回『パゼッへ(巴宰族)の旧首長潘氏一族の故地、岸裡旧社の現状』

10月22日(土) 講師/吉田裕彦 学芸員

パゼッへ(巴宰族)の人びとの多くは現在、南投県の埔里盆地に居住しています。しかし、彼らは17~19世紀の頃、台中県の豊原や神岡付近に暮らしていました。その中心地であった岸裡旧社には当時の首長であった潘氏一族の後裔が残り、当時の面影を今に伝えています。ここではその岸裡の地の現状を紹介します。

第211回『天理参考館の中国民間版画』

—所蔵資料の紹介とギャラリートーク—

11月26日(土) 講師/中尾徳仁 学芸員

中国の民間版画は単に絵柄を楽しむだけではなく、家族の平安や災難除けを祈願する等、さまざまな目的に使用されます。今回は当館所蔵の民間版画を紹介し、その後「中華世界の民間版画展」の展示解説を行います。

第212回『古代ガラス研究の現在』

—西アジアから地中海沿岸地域—

1月28日(土) 講師/飯降美子 学芸員

昨今、古代ガラスの材質分析によって、製作技法・年代・産地などに関する多くのデータが提示されつつあります。今回の新春展を機に、当館ガラス資料の分析調査をおこないました。果たして科学的データが示す事実は・・・?主にエジプト、ローマ、ペルシアのガラス資料についてご紹介したいと思います。

第213回『シルクロードのガラス』

—ササン朝ペルシアからイスラーム時代—

2月25日(土) 講師/巽善信 学芸員

吹きガラス技法を考案したオリエントでは、ガラス器は一般庶民が使う日用品となりました。粗雑品を大量生産する一方で付加価値の高い高級品を生み出すという、二極分化が進みます。高級品は東方に運ばれると、一部の上流階級しか持てない高価な奢侈品となりました。

ササン朝からイスラームにかけての時期での、ガラスの高級化に焦点を当てて、シルクロードを通じた交易の一端を見てみようと思います。

第214回『古代日本のガラス』

3月17日(土) 講師/高野政昭 学芸員

弥生時代のガラス玉から、はるばるシルクロードを通して正倉院に伝えられた優雅なガラス器まで、古代日本のガラス製品を紹介します。

また、世界では、金・銀にも勝るといわれ珍重されたガラス製品ですが、日本ではあまり流行らず、本格的なガラス製造が明治になるまで遅れたのは何故かを考えてみます。

関西博物館連盟例会開催記念

特別講演会

日時:11月30日(水)午後1時30分~[受付は午後1時より]

会場:研修室 定員:150名[当日先着順/申込不要]

受講料:無料(ただし入館料が必要)

特別講演会1:「東日本大震災と奈良盆地周辺の地震考古学」

講師:寒川旭氏(独立行政法人産業技術総合研究所招聘研究員)

特別講演会2:「自然災害から文化財を救う」

講師:内田俊秀氏(京都造形芸術大学教授)

お知らせ

「関西文化の日」入館無料
11月19日(土)~11月21日(月)

世界の生活文化と考古美術の博物館

天理大学附属

天理参考館

TENRI UNIVERSITY SANKOKAN MUSEUM

住所:〒632-8540 奈良県天理市守目堂町250

TEL:0743-63-8414 FAX:0743-63-7721

URL: <http://www.sankokan.jp/>

開館時間:午前9時30分~午後4時30分(入館は午後4時まで)

入館料:大人400円/団体(20名以上)300円

小・中学生200円(学校単位の団体は無料・事前申し込みが必要)

携帯電話のサイトから
情報をご覧ください

